

官報

號外

明治二十九年三月八日

日曜日 內閣官報局

第九回 貴族院議事速記録第三十號

明治二十九年三月七日(土曜日)午前十時五十七分開議

議事日程 第三十號 明治二十九年三月七日

午前十時開議

第一 侯爵中山孝賢君請暇ノ件

第二 明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案

會議(豫算委員)

(甲) (政府提出衆議院送付)

第三 鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第五條中改正法律案(政府提出衆議院送付)

第四 北海道鐵道敷設法案(公費近衛篤

第五 博物館設立ノ建議案(田中芳男君發議)

第一讀會ノ續(特別委員)

第六 海上遭難船舶救護ニ關スル建議案

會議

(公費近衛篤賢君外二名發議)

會議

○副議長(侯爵黑田長成君) 昨六日本院ニ於テ否決ニ爲リマシタル政府提出治安警察法案ハ即日內閣總理大臣ヲ經由シテ更ニ廟議ヲ盡サレンコトヲ奉請シ及否決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザイマス、同日本院ニ於テ可決ニ爲リマシタル復祿及復族祿ノ請願外十件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シマシテ即日政府ニ送付致シマシテゴザイマス、同日衆議院提出鐵道敷設法中改正法律案集會及政社法中削除法律案ヲ受領致シマシテゴザイマス、今朝政府ヨリ地方學事通則中改正法律案ヲ提出セラレマシテゴザイマス、議事日程ニ移リマス、第一、侯爵中山孝賢君請暇ノ件是ハ疾病ニ依リ十九日間請暇ヲ願出ラレマシテゴザイマス、御異議ガゴザイマセネバ……

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵黑田長成君) 然ラバ許可致シマス、第二、明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加案(甲) 政府提出、衆議院送付會議ヲ開キマス、豫算委員

長報告

(公費近衛篤賢君演壇ニ登ル)

○公費近衛篤賢君 此豫算案ハ昨日委員會ヲ開キマシテゴザイマス、此豫算ハ先日可決ニ爲リマシタル官設鐵道用品資金增加法律案ト云フ法案ノ結果ニ依

リマシテ出マシタル豫算デアリマシテ既ニアノ法律ガ通過致シタ以上ハ此案ハ無論可決スベキモノト云フ理由ヲ以テ委員會ニ於キマシテハ一人ノ異議ナク可決致シマシテゴザイマス、是ダケヲ御報道致シマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 此豫算追加案ハ簡單ナ案デゴザイマスルカラ歳入歳出款項トモ連テ問題ニ供シマス、朗讀ヲ致サセマス

(有賀書記官朗讀)

第九款 前年度繰入金 金貳拾五萬圓

第一項 前年度繰入金 金貳拾五萬圓

歳出臨時部

遞信省所管

第六款 官設鐵道用品資金 金貳拾五萬圓

第一項 官設鐵道用品資金 金貳拾五萬圓

○副議長(侯爵黑田長成君) 是ハ法律ノ結果ニ係ルモノデゴザイマスルカラ御異議ガゴザイマセネバ此儘ニ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

然ラバ原案ニ決シマス、豫算案議定細則第十四條ニ依リマスレバ豫算委員ヲシテ整理セシメテ更ニ報告スルコトニ爲ッテ居リマスガ其手續ヲ省キタイト存シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

御異議ガナケレバ整理ノ手續ヲ省キマス、次ニ鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法案第五條中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

貴族院議事速記録第三十號 明治二十九年三月七日 議長ノ報告 議員請暇ノ件 追加豫算案 會議

三四三

(子爵由利公正君演壇ニ登ル)

○子爵由利公正君 此法案ハ過日諸銀行ノ法案ト同時ニ委員會ヲ終リマシタノデゴザイマスガ期限前ニ銀行ヲ私立ニ致シマシタトキノ法中ニ少々修正ガ加リマシタ故ニ此法案ハ後ニ延ベテ議事ニナルコトヲ請ヒマシタ譯デゴザイマスガ今日衆議院モ彼ノ修正ヲ容レマシタ以上ハ此法案ガナクテハ協ハスト云フコトニナリマシタノデゴザイマス、是ハモウ之ニ書イテアリマスル通デ此鎮店銀行ノ紙幣モ通用處分ノコトハ前法律ニ定メラレル通ニアルト云フ事柄デアリマシテ一字ノ修正モ致ス譯モアリマセズ一言ノ異論モナシニ委員會ハ決シマシタ譯デアリマス、他ニ申上ルコトモ何モゴザイマセズ、願クハ速ニ御讀了ニナラムコトヲ希望致シマス、起立ノ序ニ請ヒマシマスガ是ハ斯様ナ法案デゴザイマス實ハ分り切タコト、申ス通デゴザイマスカラ願クハ讀會省略ノ手續ヲ以チマシテ御讀了ニナルヤウニ致シタウゴザイマス、願クハ御贊成ヲ請ヒマス

○子爵小笠原壽長君 唯今由利委員長ノ述べラレマシタ讀會ノ順序ヲ省略スルト云フ說ニ贊成ヲ致シマス

○子爵堤功長君 贊成

○調所廣丈君 贊成

○伯爵正親町實正君 贊成

○田中芳男君 讀會省略ニ贊成

○男爵中川與長君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵京極高典君 贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○森山茂君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 由利子爵ヨリ讀會省略ノ動議ガ出マシテ定規ノ贊成ガゴザイマスカラ決ヲ採リマス、由利子爵ノ讀會省略ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ノ手續ヲ省略致シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條國立銀行紙幣ノ下ニ左ノ二十三字ヲ加フ

○副議長(侯爵黑田長成君) 直ニ本案ニ附イテ決ヲ採リマス本案ヲ可トスル

諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数ト認メマス、可決セラレマシテゴザイマス、次ニ北海道鐵道敷設法案、公爵近衛篤磨君外二名發議、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告

(公爵近衛篤磨君演壇ニ登ル)

○公爵近衛篤磨君 御報告ヲ致シマス、此北海道鐵道敷設法案ノ理由ハ先日提出ノ際ニ十分述べタ積デゴザイマスカラ委員會ニ於キマシテモ夫ニ附キマシテ別段ニ變ツタ議論モゴザイマセズカラ別段ニ申シマセヌガ唯此修正ヲ致シマシタ點ニ附キマシテ其理由ヲ述べヤウト存シマス、此中少々印刷ノ誤ガゴザイマスルカラ申上ゲマスルガ尤モ是ハ僅ナ誤デアリマス、第一項中「石狩國旭川ヨリ十勝國利別十勝太」トアルベキノヲ「利別」ト云フ字ガ茲ニ抜ケテ居ル譯デアリマス、サウシテ此第二項ノ利別ト云フ即チ其處カラ起點ニ爲テ北見國相ノ内へ接續ヲスルト云フ譯ニナルデアリマスカラ是ハ此間ニ書テアルノガ至當デアッタノデス、夫ヲ落シタノデアリマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、サウシテ此線路ニ附キマシテノ修正ハ概シテ非常ナ修正デハナインデアリマスルガ此第二項ト第四項トガ加リマシタ、此事ハ先日本案ノ理由ヲ説明シマスル時分ニ其終ニ一寸一言シテ置マシタノデアリマスガ實ハ是ハ提出ノ時分ニ甚ダ粗忽デアリマシタガ此線路ヲ書クコトヲ忘レタノデアツテ即チ此費用ノ三千三百万圓ト云フモノハ此兩線路ヲ籠テ始テ三千三百万圓ト云フ費用ヲ要スルノデアリカラ是ガ加ラナケレバモウ少シ三千三百万圓ヨリモ安イ費用デアラ上ルコトデアアル、是ハ入レルノガ至當デアッタノヲ落シマシタガ幸ヒ委員ニ付託セラレマシタカラ委員會ニ於テ之ヲ挿入スルコトニナツタノデス、其外ハ何ノ國ト云フコトヲ加ヘマシタノハ内地ノ鐵道敷設法案ノ例ニ倣ヒマシタノデ、内地ノ鐵道敷設法案ハ何ノ縣下何ノ郡ト云フヤウニ詳シク書テアリマスカラ分り切ッタヤウナコトデアリマスケレドモ其例ニ倣ツテ「石狩國」トカ或ハ「十勝國」トカ云フヤウニ一々國名ヲ舉ゲタノデアリマス、此修正ハ夫ニ止マルノデアリマス、ソレカラ第七條第八條ニ於キマシテ大ニ修正ヲ致シマシタ、是ハ初北海道廳ノ調ニ依リマシテ凡ソ十五箇年モ掛レバ是ダケノ線路ハ全通スルコトガ出來ルト云フ話ヲ聞テ居リマスカラ夫ニ依ツテ十五箇年ト云フコトヲ以テ成功期限トシテ置タノデゴザイマス、然ルニ委員會ニ於キマシテ大藏省ノ政府委員カラ段々請求ガアリマシテ何分ドウモ今日ノ經濟ノ事情即チ非常ナ公債ヲ募テ居ル際デアリ、或ハ又將來ニ募ルベキ必要ナル際デアアル、既ニ明治三十五年デアリマシタカニ

至ッテハ元利ヲ合テ償却スル金高ガ三千何百萬圓ト云フモノニ上ル程ノ金高デアアル、然ルニ尙ホ其上ニ三千三百萬圓ノ公債ノ負擔ヲ政府ガセヌナラヌト云フコトニナッテハ甚ダドウモ財政ノ計畫ニ差響ク所ガアル、ドウカ是ハ年限ヲ切ラズニ置テ欲シ、ト云フコトデアリマシテ何分此鐵道法案ト云フモノガ期限ヲ切ラズニ唯北海道ノ鐵道ハ敷クベキモノデアルト云フ議決ヲシテ置タダケデハ夫ハ誰デモ不同意ハナイ話デアアル代ニ何時出來ルカ分ラナイモノデアアル、年限ヲ入レナイ位ナラバ此法案ハ要ラナイ、寧ろ廢棄シタ方ガ宜カラウト云フ位ニ強ク論ジタ人モアリマシタ、併ナガラ折角此法案ヲ提出シ、提出スルニ附イテモ色々ノ事情モアリ一方ニ色々山師的ノ仕事ヲスル者モアル、夫等ヲ防禦スルニ附テモ今日此法案ヲ出シタ上ハ僅ノ修正ノタメニ撤回シタ方ガ宜カラウナドト云フハ餘リ極端ナ話デアアル、成ルベクハ政府ノ要求通テ往カズトモ又コナラフ説ガ全ク通ラズトモ話合ヒデドウカ其邊ハ出來サウナモノデアルト云フコトデア向フ十五箇年ト云フ期限ヲ切ルコトダケハ提出者ノ方デ一步ヲ讓ルコトニシマシタ、其代政府ノ要求ハ何年度カラ著手スルト云フコトモ何ニモナイ、期限ノ事ハ何ニモ附ケズニ置クト云フコトデアリマスガツレダケハ政府ニ於テモ一步ヲ讓ッテ明治三十年度ヨリ工事ノ緩急ト財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集スルト云フコトニシテ即チ其公債募集ハ明治三十年度ヨリ始メルト云フコトニナッテ修正ヲシタ譯デアリマス、尤モ二十年度ヲ三十年度ト修正シマシタ理由ハ當年度即チ二十九年年度ノ豫算ニ空知太旭川間ノ鐵道ノ豫算ガ出テ居リマスガ是ハ即チ二年間ノ繼續デ二十九年年度ト三十年度ト二年間デソレガ出來上ルコトニ爲テ居ル、併ナガラ三十年ハ極僅ナ残りノ部分ヲヤルダケデアッテ大部分ハ即チ二十九年年度ノ豫算デア來ルノデアリマスカラ三十年度トシテモ別段ニ差支ハナイ實ハ此繼續年度ガ終ッテカラト云ヘバ三十一年度カラデモ宜イヤウナモノデアリマスガ三十年度ノ豫算ガ少イノデ三十年度ニハ早ク工事が出來上ッテシマフト云フ都合デアアルカラハ三十年度カラハ其次ノ線路ニ附イテ工事を緩急ト財政ノ都合ヲ圖ッテ公債ヲ募集スルト斯ウ云フコトニ爲タノデゴザリマス、其他ノ所ニ至リマシテハ是ハ内地ノ鐵道敷設法案ノ例ニ倣ッタノデアリマシタ、委員會ニ於キマシテモ別ニ修正ヲ要スルト云フ議論モナク全ク此ノ通ニ決シテシマホマシタノデス、委員會ノ報告ハ之ニ止メマスル、併シ此案ハ段々修正ノ御説デモ出マシレバ格別、サウデナクバ大體ノ事ニ附イテ御異議ガナイコトデアリマスレバ願クハ讀會ノ省略ヲ以テ御決シニ爲ラムコトヲ希望スルノデアリマス、是ハ私ノ一己ノ説トシテ申上ゲテ置キマス

○子爵林友幸君 本員ハ贊成致シマスカラ今委員長ノ言ハレタヤウニ讀會ヲ省略シテ……

- 湯地定基君 贊成
 - 子爵小笠原壽長君 贊成
 - 子爵板倉勝達君 贊成
 - 蟹江史郎君 贊成
 - 子爵立花種恭君 贊成
 - 船越衛君 贊成
 - 男爵小澤武雄君 贊成
 - 柴原和君 贊成
 - 田中勞男君 贊成
 - 副議長(侯爵黑田長成君) 近衛公爵ヨリ讀會省略ノ動議ガ出マシテ定規ノ贊成ガアリマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
 - 起立者 多數
 - 副議長(侯爵黑田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ノ順序ハ省略致シマス
- (左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)
- 北海道鐵道敷設法案
- 第一條 政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス
 - 第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ
 - 一 旭川ヨリ以東十勝釧路ヲ經テ網走ニ至ル鐵道
 - 一 旭川ヨリ宗谷ニ至ル鐵道
 - 一 奈與呂ヨリ網走ニ至ル鐵道
 - 一 小樽ヨリ函館ニ至ル鐵道
 - 第三條 北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ數區ニ分チ每區ノ工事を繼續事業トス
 - 第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
 - 第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス
 - 第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル
 - 第七條 北海道鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十五箇年ヲ以テ成功期限トス
 - 第八條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百萬圓ヲ限リ明治二十九年年度ヨリ十五箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ
 - 第九條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

(特別委員修正案)

北海道鐵道敷設法案

第一條 政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

一 石狩國旭川ヨリ十勝國利別十勝太及釧路國厚岸ヲ經テ北見國網走ニ至ル鐵道

一 十勝國利別ヨリ北見國相ノ内ニ釧路國厚岸ヨリ根室國根室ニ至ル鐵道

一 石狩國旭川ヨリ北見國宗谷ニ至ル鐵道

一 石狩國兩龍原野ヨリ天鹽國増毛ニ至ル鐵道

一 天鹽國奈與呂ヨリ北見國網走ニ至ル鐵道

一 後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道

第三條 北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ敷區ニ分テ每區ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第七條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百万圓ヲ限リ明治三十二年度ヨリ工事ノ緩急ト財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集ス

第八條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ決ヲ採リマス、本案特別委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数デゴザイマス、可決セラレマシテゴザイマス、次ニ博物館設立ノ建議案田中芳男君發議ノ會議ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス

(有賀書記官朗讀)

博物館設立ノ建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十九年三月五日

發議者 田中芳男

發議者 田中芳男

貴族院議長侯爵隆復賀賀賀

贊成者 伯爵 小笠原忠忱 外三十八名

我邦近年變々乎トシテ文明開化ノ域ニ進ムニ隨ヒ之ニ伴フ事物ノ備ラムコトヲ要スルハ一ニシテ足ラズト雖先ツ國立ノ大博物館ノ設置ヲ希望セサルヲ得ス抑博物館ハ圖書館ト竝立シテ兩輪ノ如ク諸學科ニ關スル各種ノ用品ヲ初メ實業上ノ物件ニ至ルマテ悉ク網羅シテ遺スコトナシ故ニ歐米各國ニ於テモ皆之ヲ設ケサルナク其ノ規模ノ如キモ極メテ宏大完備ナルモノトス依テ我邦ニ於テモ一大完備ノ國立博物館ヲ設置セラレシコトヲ希望スル所ナリ因テ茲ニ建議ス

明治二十九年 月 日

○田中芳男君 本建議ニ附キマシテ一應理由ヲ述ベタウゴザイマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 然ラバ演壇ヘ御出デテ請ヒマス

(田中芳男君演壇ニ登ル)

○田中芳男君 本建議ハ過日帝國圖書館ノ設立ノ建議案ノアリマス頃ニアノ案中ニ共ニ合併シテ建議ニ爲リタイト考ヘマシテ其頃意見ヲ述ベマシテゴザイマスルガ何分ニモサウ云フ風ナ譯ニイキマセズ、遂ニ帝國圖書館ノ建議ガ先ニ出マシテ跡ニ殘サレマシタ次第デゴザイマシテ今日更メテ建議ヲ致ス譯ニ爲リマシタノデゴザイマス、此建議案中ニゴザイマス通圖書館ト併立シテ兩輪ノ如クドウシテモ圖書館ガ立ツ以上ハ博物館モ共ニ立タネバナラヌト云フ理由ガアルカラシテ旁々是非トモ建議ヲ出サウニ致シタイト考ヘマシタ譯デゴザイマス、然ルニ此博物館ト申シマスルモノ我邦ニ起リマシタルコトニ附キマシテハ過日一應述ベテ置キマシテゴザイマスカラ今日重テ今日マデ我邦ノ博物館ノ出來マシタ歴史上ノヤウナコトハ述ベマセヌ、併シ此理由ニ書イテアリマス所ノ事ニ附イテハ一言尙ホ申上ゲテ置カネバナラヌ、實ハ茲ニ理由ニ書マシタ帝國博物館ト云フモノガ今我邦ニアル以上ハ更メテ又國立ノ博物館ナドハイラヌト云フ御考モアルカモ知レマセズ、又其他ニ教育博物館ト云フモノガアリマスレバ既ニ教育ノ博物館モ備フテ居ルト云フコトノ又御考モ出ルカモ知レマセヌ、併ナガラ此理由書ニモ書キマシタ帝國博物館ト申スモノハ皇室ノモノニナラテ居リマスル故ニ其規模ニ至リマシテハ本員共ノ彼是隊ヲ入レル譯ニハ參リマセヌ、併シ之ガ能ク備タモノカト申シマスルト日本ノ帝國博物館デアリマスルガ其實古器物ヤ美術品保存ノ方ニ止テ居リマシテ決シテ一般ノ物品ヲ備ヘタト云フ譯ニハ參リマセヌ、尤モ其中

ニ幾分科學ニ關係シタモノモアリマスルケレドモ是トモ甚ダ不完全ナモノデア、而カシマシテ教育博物館ト云フモノハ文部省ノ所轄デゴザイマスルケレドモ此品物タルヤ成程教育上ノ品物ハ多少備テ居リマスルガ學科ニ於キマシテハ甚ダ不完全ナモノデア、又陸軍省所屬ノ遊就館ノ如キモノハ成程武器類ガ大分備テアリマスルケレドモ是ハ甚ダ不完全ナモノデア決シテアレヲ以テ武器ノ博物館トハ言レマイト私ハ考ヘマス、ソレ故ニ此三箇ノ博物館ガ三箇所ニアリマシテ互ニ懸ケ隔テ居ル不便ノミナラズソレヲ三ツ合セテ見マシテ所ガ甚ダ不完不備ト申サネバナラヌ、勿論先刻申シタ帝國博物館ノ如キ所謂帝室ニ屬サレタモノニ至テハ實ニ彼是陳辯致シマスルノハ甚ダ恐縮ノコトデアアリマスルケレドモ勢ヒドウモ帝國博物館ト云フ組織ガ我邦ノ博物館ニ取テハ如何ニモ不完全ナモノデア一方ニ片寄過ギタモノト言ザルヲ得ヌノデゴザイマス、ソレ故ニ完備シタル所ノ博物館ヲ茲ニ改メテ建テタイト云フ考デア、ソレ故ニ不完不備ト云フ點ニ爲リマスレバソレハ誠ニ指ヲ折ルニ違アラヌ位澤山ノ不完全トハ爲リマスルケレドモ併シ其中デア方今最モ文明開化ノタメニ行レマスル所ノ鐵道ニシロ電信ニシロ乃至航海業ニシロ其他電信事業ニシロ其様ナモノヲ少シ參照スル博物館ガ何處ニアルカト申シマスルト先ツナイト申シテ宜シ、況ヤ其他學科カラシテ連帶シテ起ツタ所ノ實業及又農産物ニシロ工業ノ産物ニシロ其他水産山林ノ如キモノニ至テモ何處ニ博物館ト云フモノガアツテソレヲ參照シテ大ニ殖産上ノ資ニ供スル場所ハ何處カニアルカト云フト是等ニ對シテハ先ツ大抵ナイト申シテ宜イ姿デア、ソレ故ニ本員ナドハ唯今アル所ノ博物館ヲ以テ何レモ完備ナルモノト見テ安シテ居ル譯ニハ參リマセヌ故ニ更メテ一ツノ博物館ヲ建テタイト云フ考デア、然ラバ帝國ト云フ名ヲ取テソレニ附ケテ宜シイト云フ御考モアリマセウケレドモ實ハ帝國ト云フ名ヲ今度出來マス博物館ニ附ケタイト思ヒマスガ帝室ニ屬スル所ノ博物館ガ既ニ帝國ノ名ノアル以上ハソレト撞著スルヤウナ譯デイケマセヌカラシテ此名前ハ帝國ト云フ名ヲ省キマシタ、而シテ又今日マデ諸方ニ博物館ト云フモノガ各地方ニ出來テ居リマスルノハ何レモ此中央ニアリマスル所ノ博物館ノ規模ニタヨッタモノト考ヘマスル、ソレ故ニ從前ハ博物學上ノ品物モアル或ハ殖産上ノ品物モアル或ハ學科ニ關係シタ品物モアリマシタケレドモ中央ノ博物館ガ方向ガ變テ次第第一方ニ偏シタ故ニ各地方ノ博物館ノ如キモノハ皆ソレニ習テ唯今申シタヤウナ學科ノモノニシロ殖産上ノモノニシロ皆土藏ニ敵ハテシマッタト云フ有様ニ爲テ居リマス、是ナドハ中央ニアル所ノ規模ヲ自然ニ各地方ニ及ボシタモノト考ヘマス、本員ナドニ於キマシテハ其様ニ流レマシタノハ甚ダ遺憾ニ思ヒマス、殊ニ亦地方ノ博物館ノ様子ヲ見マスルト、至テ水臭イ處置ガ多イ、

成程高尚ナモノハ澤山アリマシタ所ガ、唯モホシノ名前ガ書テアル位ノモノデ誰ガ見テモ分ルトハ思ハレマセヌ其筋ノ人ガ見マシタナラバ成程是ハ時代時繪ト書テアレバ、鎌倉時代ノモノトカ、或ハ古伊萬里ト書テアレバ是ハ何百年前ノ伊萬里饒ト云フコトガ分リマセウ、ケレドモ其邊ノ事ヲ辨ヘヌ人ガ見タナラバ分ラヌ、其ヤウナ水臭イ札ヲ書タキリテ述ト説明ト云フモノガナイ以上ハ一ノ器械ガアリマシタ所ガ何モ器械ト書テアルダケデア更ニ其働等ヲ書テナイト云フヤウナコトデアリマス、本員ナドノ考ヘマスルト博物館ヲ建テ、人ノ智識ヲ開發シヤウト思フ位ナラバ成ル可ク札ノ如キモノハ聊カ文字ノ知レル者ニハ能ク分ルヤウニ書キ又假名モ附ケテ分ラヌコトノナイヤウニ致シ或ハ幾分カ説明ナドヲ添ヘ若クハ繪圖ナリ、雛形ナゾヲ添ヘテ十分ニ分ルヤウニセネバ今日ノ博物館ニドノヤウナ立派ナモノガアツタ所ガ人ガ見テ分ラヌト云フコトニナリマスカラシテ、仰ギ願クハ向後ノ博物館ニハ其邊マデモ注意ヲ是非致シタイト云フヤウニ考ヘマス、而シテ圖書館ト共ニ何處ニ持ッテ行ッテ建テルト云フ議論ガアルカ知レマセヌガ本員ノ私カニ望ミマスル所ハ願クハ二重橋外ノ廣場ニデモ持ッテ行ッテ立派ナ圖書館博物館ヲ建築シタイト考ヘマス、餘リ斯様ナコトヲ諄々シク申シマスルモ御煩シウゴザイマセウカラ、本員ハ唯博物館ガ入用ダト云フ事ノ理由ヲ一言述ベテ置キマスカラ、ドウゾ諸君御賛成アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 本案ニ附イテ決ヲ採リマス、本建議案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半数デゴザイマス、可決セラレマシテゴザイマス、次ニ海上遭難船舶救護ニ關スル建議案、公爵近衛篤磨君外二名發議、會議ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス

(河田書記官朗讀)

海上遭難船舶救護ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十九年三月五日

發議者 公爵 近衛 篤磨 外二名

贊成者 伯爵 正親 町實正 外四十五名

海上遭難船舶救護ニ關スル建議案

我大日本帝國ハ環海ノ國ナリ故ニ外國ノ交通運輸ニ論ナク内國ト雖モ亦船舶ニ頼ラサルハナシ近世文明ノ開發ニ隨ヒ交通運輸モ大ニ頻繁ヲ極ム乃チ政府モ亦銳意航海ノ業ヲ獎勵シ燈臺ヲ建築シ礁標ヲ設置シ郵船會社ヲ保護シ造船所ヲ擴メ商船學校ヲ起シ特別輸出港ヲ開ク等事業ノ見ル可キモノ多ク更ニ海員養成造船航海業ノ急務タルコトヲ知リテ遂ニ其經費ヲ本議會ニ提出セラル、ニ至ル然ルニ海上ニ於ケル必要ノ事業ニシテ猶缺典ニ屬スルモノアリ

夫レ海上ハ陸上ヨリモ危險ナルコトハ論ヲ踈タス故ニ構造堅固ナル船舶ト雖モ動モスレハ風波ノ爲ニ不測ノ難ニ遭ヒ生命財產ヲ損失スルコト妙シトセシ今最近十年間ニ於ケル五十石以上ノ遭難船舶ノ數及人員ヲ調査スルニ破壞損傷沈沒漂流ノ船舶ハ五千二百二十四隻ニシテ死亡負傷漂流ノ人ハ實ニ二千五百七十五名ニ及ヘリ是レ固ヨリ災變ノ奈何トモスヘカラサルニ因ルト雖モ苟モ之ヲ救済スルノ事業アラハ吾人ハ之ヲ講究シ更ニ擴張スヘキ義務アリト信スルナリ

世ニ早ク此ニ注目スル人アリテ帝國水難救濟會ト云フモノヲ起シ數年ノ間ニ建設シタル救難所ハ十餘箇所ニ及ヘリ而シテ其水難ヲ救済セシコト既ニ二百回餘ニシテ二百五隻ノ船舶及八百九十三名ノ人ニ向ツテ其生命財產ヲ救助シ以テ其目的ヲ達スルヲ得タリ然ルニ該會ハ元來慈善家ノ義捐金ヲ資本トシテ組織セラレタルモノナレハ自カラ規模狹少ニシテ救難所ヲ沿海ノ要部ニ普及スルニ足ラサルナリ

抑々海上ノ救済ハ陸上ノ警保ノ如シ國家カ宜シク爲スヘキノ事業ナリトス故ニ今日政府ハ航海ヲ獎勵スルニ當リ百尺竿頭一步ヲ進メテ水難救済主管ノ部局ヲ置キ此事業ニ經驗アル人ヲ用井テ之ヲ司ラシムヘシ

又海外諸國カ如何ニ此事業ヲ擴張スルカヲ觀察スルニ米利堅英吉利諸國瑞典丁抹白耳義等ノ國ニテハ此事業ニ關シ政府部内ニ一部局ヲ置キ而シテ一切ノ費用ハ國庫ヨリ支給スル事トナレリ又魯西亞獨逸以太利佛蘭西ノ諸國ニテハ皇帝皇后皇子皇族或ハ内閣大臣此事業ノ主宰ト爲リ經費ハ國庫ノ補給ト公衆ノ醵金トヲ併セテ支辨スルモノアリ

此事業ノ性質ニ就キテ言フモ又列國ノ事例ニ就キテ見ルモ固ヨリ多クハ國家的ニ屬スルコト前述ノ如シ故ニ我帝國ニテモ斷然此事業ヲ國家的事業ト爲シ政府之ヲ直轄シ之ヲ整理シ能ク其美ヲ濟ス可シ

政府ハ本議ヲ納レ案ヲ具シテ其豫算ヲ議會ニ提出アラムコトヲ望ム因テ茲ニ建議ス

明治二十九年三月 日

(公費近衛篤磨君演壇ニ登ル)

○公費近衛篤磨君 今日國費多端ノ際ニ於キマシテ、尙ホ政府ニ向テ國費ヲ要スル事ヲ建議シヤウト云フノハ甚ダ望マシクナイコトデアリマスガ、此事ハ實ニ今日ノ場合已ムヲ得ナイコトデアアル、私一個ノ考テ見レバ或ハ過日本院ヲ通過ヲシタ所ノ豫算案ノ中ニモ或ルモノハ省イテモ此事ハ是非ヤラネバナラヌト云フ位ニ熱心ニ考ヘル事デアリマスカラシテ斯ウ云フ際ニ拘ラズ本建議案ヲ提出シタ次第デアリマス、凡ツ山ノ多イ國ハ此國ノ經綸、國防軍備カラシテ殖産興業ノ事ニ至ルマデ總テ山カラ割出シテ來ルト云フコトハ無論ノ話デアリマス、又我國ノ如キ四面海ヲ以テ環ラス國ニアテハ萬般ノ事、矢張海カラ割出シテ來ルト云フコトガドウシテモ適當ダラウト思ハレルデアリマス、是ハ實ニ我國ノ天然ヲ利用シタ最モ良法デアルト思フノデス、然ルニ我國ハ海ヲ以テ環ラス所ノ國デアリ、且ツ三千年來ノ古國デアアルニモ拘ラズ此海ニ關スル事柄ノ幼稚ナルコトハ實ニ苟モ文明國ト言ハレル國ノ中デハ最モ幼稚ナルモノデアルト考ヘルノデアリマス、或ハ其幼稚ナル理由ハ舊幕ノ初ニ於テ海外ノ交通ヲ禁ジタノガ其原因デアルト云ツテ罪ヲ三代將軍家ニ歸スル說モアリマス、或ハ夫モ一ノ原因デアリマセウ、又一ニハ我邦ノ土地ガ豐饒デアツテ別段海外トノ交通ヲ要サズトモ十分ニ自立シテ行クダケノ途ガ立ツ所謂海外ト交通ヲ開カヌデモ生活ヲシテ行クコトガ出來ル、即チ天然ノ美國デアアルガタメニ自ラ此四面海ヲ以テ環ラシテ居ルニ拘ラズ其海ヲ利用スルコトヲ知ラナカツタノモ一ノ原因デゴザイマセウ、ソレカラ又歐羅巴諸國ガ互ニ國ト國トノ間ニ競争シテ制度文物皆互ニ爭ツテ其進歩ヲ謀ツテ居ル

ノニモ拘ラズ日本ハ數千里隔ツタル所ノ東洋ニ僻在シテ居ルガタメニ此競争場裡ニ這入ルコトナクシテ今日マデ來タト云フノモ其一ノ原因デアラウト思フノデス、右ノ事情デアリマスカラ海上ノコトハ至ツテ幼稚デアアル幸ニシテ維新以來ニ於テ此内地沿岸ノ航業ハ外國船ヲ驅逐シテ日本人ノ手ニ歸スルコトヲ得マシタノハ誠ニ幸ノコトデアリマスガ、夫ヨリ進デ海外ニ航路ヲ擴張シ或ハ又我邦ノ商權ヲ擴張スルト云フ場合ニ方ツテ朝野ノ人舉ツテ此航海業ノ發達ヲ謀ルコトハ異論ハナイノデアアル、既ニ政府カラ航海獎勵法案或ハ造船獎勵法案ナドモ提出サレタノモ政府ニ於テ其必要ヲ認テ居ルト云フコトハ分ルノデアリマス、今日ニ至ルマデ此事ニ著手ガナカツタト云フノハ既ニ遲イ位ノ感シヲ持ツテ居ルガ併ナガラ免ニ角今日ニ至ツテモ遲イナガラモ其處ニ氣ノ附キマシタノハ誠ニ私ハ我邦ノタメニ幸福ト云ハナケレバナラヌ、建議案ノ中ニモ書イテ置キマシタ通海上ノ設備ニ附キマシテハ隨分色々ナコトガ出來テ居ルノデス、即チ燈臺ノ如キ或ハ暗礁ヲ知ラセル標ノ如キ或ハ法案トシテハ航海ノ安寧ヲ保護スル爲ニ海上衝突豫防法ト云フモノモアル、隨分

トシテハ航海ノ安寧ヲ保護スル爲ニ海上衝突豫防法ト云フモノモアル、隨分

色ノノ仕事が出来テ居ルノデゴザイマス、尤モ其事ハドノコトモマダ不完全
 デハアリマスガ夫ハ年ヲ逐テ完備スルモノト見テ宜シト思フ、然ルニ獨
 此水難救濟ノ事ニ至テハ一向是マテ手ヲ下シテコイハ無イ、無イコトハナ
 イ有リハスルガ甚ダ不完全デアアル、明治八年ニ於キマシテ内國船難破及漂流
 物取扱規則ト云フモノガアリマス、夫ハ何デモ維新前ノ法律……法律ト云フ
 カ村ノノ約束ノヤウナモノガ舊幕府ノ時代ニアツテ夫ヲ取纏テ一ノ規則ノヤ
 ウナモノヲ編製シタノデアリマス、是ハ即チ一ノ規則トシテ成ルベク難破船
 ガアレバ夫ヲ救テヤレト云フコトガ書イテアルケレドモ若モソレヲ救フ者
 ガナカクマラドウスル、救ハナカクマラドウスルト云フ別段制裁ガナイ、夫
 デ漂流物取扱規則ト云フモノハ多少ノ功ハアリマシタラウガ大シタ功能ハ
 無クモト思ハレマス、其證據ハ是ハ或人カラ聞イタ話デアリマスガ英國
 ノ船ガ何處カ日本ノ北ノ方ノ海岸デ難破シテ其時ニ其海岸ノ人民ハ難破船
 ヲ救フドコロデナクシテ分捕ヲシタ……分捕シタト云フノハ甚ダオカシイケ
 レドモ總テ其船ニ屬シテ居ル物ヲ奪テ持テ往テシマツタト云フ話デア
 リマス、是ハ既ニ此漂流物取扱規則ト云フモノガアルニ拘ラズサウ云フ出来
 事ガアツタ、ソレデ明治十二年ニ英吉利ノ要求デ日英兩國難破船救助費償還ノ
 件ト云フ一ノ條約が出来テソレデドウカ英吉利ノ船ガ日本へ來テ難破シタラ
 日本デ能ク救テ呉レ其費用ハ本國カラ支辨スルカラト云約束デアアル、其代
 日本ノ船ガ英吉利へ往テモ同様デアアル無論ハ相互的ノ條約デアリマスケ
 レドモ日本ノ船ガ英吉利へ往テ英吉利ノ沿岸デ沈没スルトカ或ハ難破スル
 トカ云フ場合ガアレバ誠ニ結構デアアルガ未ダ其場合ニ至テ居ラヌ、シテ見
 レバハ唯英吉利ニ對スル約束ニ止マル、又亞米利加トモ明治十六年ニ同ジ
 様ノ約束が出来テ居ル、是等ハドウモ我邦ノ水難救濟ノ途ガ立テ居ラヌカ
 ラシテ據ナク斯ウ云フ約束ヲセナケレバナラヌノデアリマシテ、此約束ト云
 フモノハ實ニ不面目千萬ナ話デアアル、併シ其約束ノアル以上ハ廢スルコトハ
 出来ヌケレドモ此約束ヲ英吉利ナリ亞米利加ノ國ガ日本ニ於テ認メ又位ニ永
 難救濟ノ事ヲ進歩サセナケレバナラヌト思フノデアリマス、我邦ニ於キマシ
 テハ既ニ明治二十二年ノ頃デアアツタト思ヒマスガ水難救濟會ト云フモノガ或
 有志ノ結合ヲ以テ出来マシタ、即チ此水難救濟ノ事業ニ從事ヲシテ居、タノ
 デス、同會ノ歴史ハ私ハ水難救濟會ノ會員デナイカラサウ精シクハ知リマセ
 又此議場ニハ隨分會員ノ方ガ澤山居ラレマスカラ若シ御質問ガゴザイマシタ
 ナラバソレ等ノ方カラ御答辯ガアリマセウ又少々聞イテ居ルコトモアリマス
 ガ其歴史ハ茲デ喋々スル必要ガナイト思ヒマスカラ格別申シマセヌガ明治二
 十二年ニ讚岐ノ屋島ト云フ所ニ救難所ヲ設ケマシタガソレカラ漸次増加シテ
 今日デハ十何箇所ト云フモノが出来テ居ル、是ハ即チ此建議案ノ中ニ書イテ

アル通デアリマス、ソレカラソレヲ救濟シタ數ガ二百回餘其船ノ數ガ和洋ト
 モ二百五隻、船客人員八百九十三人、斯ウ云フ割合デアリマスカラ若モ其救濟
 所ト云フモノ、數ヲ増シテ全國ニ置イタナラバ必ズ非常ニ水難ヲ救濟スルコ
 トが出来ルデアラウト思ハレル、此處ニ統計表ガアリマスガ明治十八年カラ
 二十七年マデノ遭難船船人員表ガアリマス、ソレハドウモ一々讀上ゲルノモ
 甚ダ煩シイコトデアリマスガ、ソレハ夥シイ數デアリマス、破壊ノ船ノ數ガ
 三千六百四十二、損傷ガ千二百三十五、沈没ガ百十七、漂流ガ百三十、ソレ
 カラ人員ノ方デハ其遭難ノタメニ死亡シタ者ガ千九百五十一人、ソレカラ負
 傷シタ者ガ百八十一人、ソレカラ漂流シタ者ガ三百四十三人、マア斯ウ云フ
 割合デアアル、ソレデ此救濟所ト云フモノヲ澤山拵ヘレバ拵ヘル程ソレダケノ
 效能ガアルト云フコトハ分ツテ居リマスガ、併シナガラ此水難救濟會ト云フ
 一箇ノ慈善家ノ寄集リテ出来タ所ノモノデ寄付金ヲ以テ成立ツテ居ル様ナ會
 デアルノニ、ソレニ向ツテ數百箇所ノ水難救濟所ヲ建テロト云フコトヲ要求
 スルノモ隨分無理ナ話デアアル、又其會ハ建テヤウト思フテモソレダケノモノ
 ハ非常ナ入費ガ掛テ出来ヤウ筈ハナイ、況ヤ此事柄ハ實ニ國家ノ事業トシ
 テヤルベキ事柄デアアル、僅ニ一個人ノ寄集リノ協會ニ委託スベキモノデナイ
 ト云フコトハ申スマデモナイ事デアリマスカラ、是非ハ追ヒト航路ヲ擴張
 シ日本ノ航海ノ制度ヲ進メルニ就イテハ、此ノ如キ事モ段々進歩サセナケレ
 バナラヌト云フコトハ申スマデモナイコト、思フ、既ニ燈臺ヲ拵ヘ或ハ暗礁
 ヲ知ラセル所ノ標ヲ附ケルト云フノハ即チ難破ヲサセナイタメノ豫防デア
 ル、豫防ダケハシテ既ニ難破シタ後トノモノハ構ハヌト云フコトハ、是ハ隨
 分自家撞著ノ話ト言ハナケレバナラヌノデアアル、ソレデ別段ニ長イコトヲ申
 スニハ及ビマセヌガ、唯、是、ノ理由ヲ以テ此事ヲ一日モ早ク政府カラシテ
 豫算ヲ出シテ國家事業トシテヤル様ニシテ貫ハナケレバナラヌト斯ウ云フ話
 デアル、既ニ外國ノ例ナドハ此建議案中ニ書イテ置キマシタカラ又此處デ喋
 喋スルノハ即チ重複ノ嫌ガアルカラ申シマセヌ、唯願ハクハ滿場ノ諸君モ私
 ノ述べタ所ニ御同感デアラナラバ直ニ此案ニ御賛成ヲ下サツテ此案ノ成立タ
 シコトヲ希望スルノデアリマス、大體ノ理由ヲ茲ニ述べマヌ

○子爵林友幸君 此建議案ニ賛成致シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ決ヲ採リマス、本
 案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半数デゴザイマス、可決セラレマシテゴザイ
 マス、明後九日ノ議事日程ヲ御報告ニ及ビマス、午前十時開議、第一、侯爵
 尙泰君請暇ノ件、第二、伊丹重賢君請暇ノ件、第三、營業稅法案、政府提出、

衆議院送付、第一讀會、第四、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員選舉、
第五、航海獎勵法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報
告、第六、造船獎勵法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員
長報告、第七、市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法案、政府提出、衆議
院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告、第八、公立學校職員退隱料等ニ關
スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告、本日
ハ散會

午前十一時五十五分散會